

【八月の言葉（令和六年）】

うまくいかない原因は

” 自分の内 ” にある。

とんない 貪愛の心つねによく善心けがを汚し、瞋憎しんぞうの心つねによく

法財を焼く

（教行信証）

「善心」とは、仏教が説く善き心を表す言葉です。親鸞は善心を汚してしまうのが、際限なくむさぼり続ける心（貪愛）だといえます。そして、思い通りにならないことに対する怒りや憎しみの心（瞋憎）は、仏となる可能性を持つ自分（法財）を焼き尽くしてしまうというのです。

たとえば、「自分らしく生きたい」と考えながら、他人をうらやみ、他人の生き方を真似しようとしていないでしようか。「自分は正しい」という思いから、他人に対して怒りの矛先を向け、その刃で自分のことも傷つけていないでしようか。

自分の人生がうまくいかないと思うときは、環境や境遇など、自分の外側に原因を求めるのではなく、自分の内側をじっくり見つめ直すときだといえるでしょう。